



2024年12月26日  
第112号

JR東労組   
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一  
編集 情宣 担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

# 「駅業務執行体制の再構築(その3)」提案を受ける

地本は12月25日、横浜支社より表題の提案を受けました。提案内容および会社との議論については以下の通りです。

**実施内容** 小田原駅のホーム業務体制の見直し とそれに伴う出面数の見直し (▲1テ) 業務の融合により、**駅社員と乗務員とで車内貫通業務を行う。**

**実施日** 2025年4月1日 ※乗務員による車内貫通の実施は同年3月15日から実施。

組合側	会社側
見直し対象となる作業ダイヤは具体的に何か？	統括センター内で検討している。現状の作業ダイヤが、そのまま1本なくなるわけではなく、全体で見直していく。
ホーム事務室の体制を無くすのか？	遺失物の取扱いは残る。営業時間も変えない。
対象となる乗務員区はどこか？	首都圏本部を含め、小田原駅に <u>関係する全乗務員区が対象</u> である。
対象となる乗務員は、運転士と車掌両方か？	<u>車掌が対応</u> する。
対象となる列車は特急列車を含むのか？	<u>特急を含めて、上下線で終着となるすべての列車が対象</u> である。
小田原駅で乗務員が車内貫通できる根拠は何か？	これまでも乗務員による車内貫通は検討してきた。すでに東神奈川や磯子駅でも融合として行っており、小田原も準備が整った。
今後、他の駅にも波及させていく考えか？	<u>今後も検討を進めていくことに変わりはない。</u>
実施日が3月ダイヤ改正とした根拠は何か？	乗務行路の変更のタイミングに合わせて行う。
教育や訓練は間に合うのか？首都圏本部もある。	実施まで3ヶ月以上あり、できると考えている。
車内貫通の具体的な方法についてはどうやるのか？	<u>車掌と駅員(警備員含む)が前後から</u> 出会うまで点検する形となる。
<u>ドア閉扉はどのように合図し、誰が行うのか？</u>	<u>ドア閉扉は当該列車の運転士</u> が行う。閉扉の合図は、駅(または警備員)が持つ <u>ワイヤレスマイク</u> を通して運転士に伝える。
遺失物の対応はどのように考えているか？	駅側が警備員の場合は取扱いができないので、車掌により所定の取扱いを行っていただく。
環境アクセスが車内清掃し、 <u>ドアコックで下車する取扱い</u> があるが、どのように行うのか？	車内点検の見直しに関連して、 <u>作業方法について調整中</u> である。必要な周知と訓練は実施していく。
乗務員が <u>グリーン車の座席方転</u> を担うことはあるのか？	<u>座席方転は行わない。</u>
車掌の行路カードへの表記は行うのか？	現在検討中である。
確実な降車と、かつ誤乗させない対応が必要である	放送強化に努めて、誤乗が無いようにしていく。
<u>臨時で車両交換することもあるが同様に</u> 行うのか？ 遅延を避けるため車交できなくなることはないか？	<u>車両交換時についても同様に</u> 行う。遅延による車交可否の判断はケースバイケースである。お客さまに迷惑がないよう総体で行う。

**新たな作業にリスクがないか？ 感性を高め職場で議論しよう！**